



平成28年6月1日
京都市立修学院第二小学校
校長 川口 正二

6月のことば

5月から、子どもたちに「今月のことば」を送るようにしました。1回目は「互いの違いを認められる人になろう」でした。今月は「自分に正直に生きよう」としました。ちょっと難しいことばかも知れませんが、子どもたちには6月の朝会の場でわかりやすくお話をしようと思います。ぜひ、おうちでも話題にしてみてください。

子どもを見守る二つの “眼”

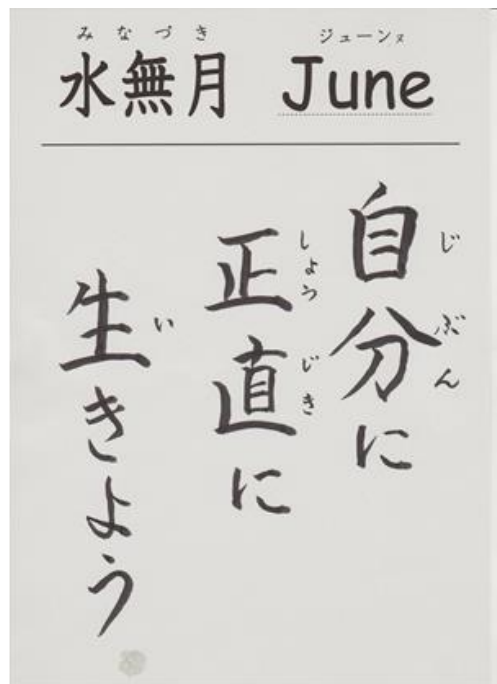
さて、少しタイミングが遅れてしまいましたが、4月の入学式で式辞の中で述べさせていただいたことを、改めてここで紹介させていただきたいと思います。

1年生には3つのお願いをしました。「自分でできることは自分でできる子」「元気なあいさつのできる子」「人の話を最後まで聞ける子」になってほしい、というものでした。在校生代表で出席していた2年生には、1年生が「あのお姉さんのようになりたい。あのお兄さんのようになりたい」と思える立派な先輩になってほしいとお話しました。

そして、保護者の皆様には次のようなお話をさせていただきました。「子どもは家庭で愛され、学校で学び、地域で育つ」と言われます。学校においては教職員一同、子ども達の心身ともに健やかな成長のために一生懸命取り組ませていただきます。保護者の皆様には、本校の教育活動とともに地域の活動へのご理解とご協力をお願いしたい、というものです。加えて2つのお願いをいたしました。

一つは、困ったことは何でも学校に相談してください、ということです。お子達が学校生活を過ごして行く上で、きっと困ったことや悩み事が出てくると思います。そのような時は何でも学校に相談してください。ご一緒にお子達の成長について考えていきたいと考えています。また、学校への疑問、ご意見、ご批判などもございましたら、どうぞお教えてください。本校の教育力向上に活かしていきたいと思います。

もう一つは、お子達をたっぷりの愛情で育てていただきたい、ということです。子どもの成長には、まず家庭で愛情を受けることが一番大切です。そしてその上で、お子達を、2つの眼、すなわち愛情を持った眼と、少しだけ疑う厳しい眼で見るようにしていただきたい、とお願いいたしました。多感な時期を過ごす子ども達です。大人がしっかりと見守る必要があると思います。



1年生を迎える会・CDプレゼント

ホームページや修二だよりでも紹介しておりますが、5月18日（水）に1年生を迎える会が行われました。私としては、小学校での新入生を迎える会というのは初めての経験でした。

それぞれの学年が、いろいろな工夫を凝らした出し物を披露して1年生を歓迎してくれました。1年生の「お返し」も立派でした。子ども達が大きな声で、からだいっぱいの表現で、また美しい歌声で一生懸命に取り組む姿を見て、私は胸がジーンとしていました。実は、最後に「校長先生のお話です」と言われて、全校児童の前で話をする時には、涙をこらえ涙声になるのを抑えるのに必死でした。素晴らしい会でした。

この会の最後に、6年生から1年生一人一人に「ぼくらのふるさと一乗寺」のCDを一枚ずつプレゼントしました。「ぼくらのふるさと一乗寺」歌詞銘板制作実行委員会の皆様のご厚意により、今年度から新入生にプレゼントして、朝会などの行事の時に歌う校歌や（校歌も入っています）「ぼくらのふるさと一乗寺」を覚えるのに役立てていただこうというものです。実行委員会の皆様、ありがとうございます。

ホームページをご覧ください。

学校の様子などをホームページにアップしています。お子達の学校での活動など写真付きで掲載しております。どうぞご覧ください。掲載回数もできるだけ多くしていきたいと考えています。インターネットで「修学院第二小学校」で検索していただき、トップページを「お気に入り」や「ブックマーク」に加えていただくと良いかと思います。「修二だより」にもURLを掲載しています。



4年生・算数科研究授業の様子



3年生・大文字遠足の様子

